

# 栄村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、1戸当の経営面積が零細で、湿田・小区画の水田が多く、農業従事者の減少・高齢化が進み耕作条件の悪い水田の荒廃が進んでいる。また、平成23年3月12日発生の長野県北部地震によって、農業意欲の後退に拍車がかかり、被災した水田を復旧せずに耕作を放棄する農家や離農する農家も発生している。

しかしながら、本村の水田農業は地域の景観、集落機能の維持においても重要な役割を持ち、反収が低いながらも良質米の産地として評価を受け、震災以降各地での需要が増えている。

こうした背景から、現在の水田面積を維持しながら、新たな地域特産品の作付を推奨することによって、農家戸数の減少による耕作放棄を防止するため、担い手への農地集積を進める必要がある。

## 2 作物ごとの取組方針

### (1) 主食用米

水稻生産に適した土地柄であることから、さらに良質米の生産に取り組む。また、震災以降の営農意欲の減退、機械作業の困難な水田については、耕作放棄地とならないよう、基盤整備を進めるなどしながら、地域特産物の栽培によって活用し、振興作物の作付けを推進する。

### (2) 非主食用米

生産数量目標値内の水稻作付けであるため、今後の経過をみながら推進体制を確立していく。

### (3) 大豆

自家用及び販売用みそ加工大豆として、生産量の増加を図るため、水田における排水対策同時播種による生産性向上の取組をしながら推進する。

(平成25年30a→平成28年500a)

### (4) そば

震災以降新たな地域特産品(振興作物)として生産・加工などの取組・販売を開始し、生産面積を拡大している。本村にとって、ニーズの高い作物として位置づけられることから、新たな特産品としてブランド化を図るためにも、今後もこの取組をさらに推進し、特定品種の生産面積を高め、水田の活用を進める。

(平成25年275a→平成28年500a)

### (5) 野菜・花き・雑穀・山菜

地域の特色を高めるため、水田における転作作物としてアスパラ、きゅうり、ズッキーニ、行者ニンニク、花き(りんどう、シャクヤク、オミナエシ)、雑穀(きび、あわ)、山菜(わらび、ぜんまい)について、地域振興作物として振興しブランド化を図りたい。

また、これらの作物については、これまで畑地での栽培が主であるが、産地交付金による水田での栽培に対する支援を行い、転作への円滑化及び水田の有効活用を図っていく。

### (6) 不作付地の解消

該当不作付地なし

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 26 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	217.0	215.0	210.0
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆	0.6	1.3	5.3
飼料作物			
そば	4.9	5.2	7.2
なたね			
その他地域振興作物	2.2	3.9	7.3
野菜その他			
・アスパラ	0.3	0.5	1.0
・きゅうり	0.2	0.3	0.5
・ズッキーニ	0.3	0.5	0.5
・行者ニンニク	0.1	0.1	0.3
・花き	0.5	1.0	1.0
・雑穀	0.3	0.5	2.0
・山菜	0.5	1.0	2.0

### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	大豆	排水対策生産性向上	イ	実績面積	0.3ha	1.0ha	5.0ha
2	そば	新たな特産品開発	ウ	実績面積	2.7ha	3.0ha	5.0ha
3	野菜（アスパラ、きゅうり、ズッキーニ、行者ニンニク）・花き（りんどう、シャクヤク、オミナエシ）・雑穀（きび、あわ） 山菜（わらび、ぜんまい）	地域特産品推奨	ウ	実績面積	2.2ha	3.9ha	7.3ha

※「分類」欄について

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組